慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	閩南語方言詞"甲"と其の文法役割について
Sub Title	Syntaxical functions of the vernacular expression "Kou" in Min-nan dialect
Author	小松, 嵐(Komatsu, Ran)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2004
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.87, (2004. 12) ,p.337(30)- 351(16)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	岡晴夫教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00870001-0351

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

閩南語方言詞“甲”と其の文法役割について

小松　嵐

1．始めに

方言詞とは、ある方言の中の特有な語彙で、其の方言の文法上特定な役割を担う語を指す。方言詞は、漢語普通話と字形が一致するものもあれば、その方言の独創的なものもある。拙論に取り上げられている閩南語方言詞の“甲”は、現代漢語普通話の“甲”とは字形が同じで、その品詞、用法にも一部対応できるものがあるが、独特な用法も数多く見られる。“甲”は多種類且つ独創的な用法を以って、閩南方言文法上の重要な役割を果たしている。

拙論は、閩南語方言詞“甲”の用法を纏め、普通話との対応を見、方言文法上の役割を明らかにしたい。

説明：1．閩南語の発音はIPA（国際音声記号）を以って記す。
　　2．閩南語の声調を□1、□2、･･･で記す。
　　3．閩南語方言漢字は〔□〕を以って記す。
　　4．普通話対訳を（　）によって記す。

2．“甲”の品詞＆用法

“甲”は、kaʔ6と発音され[1]、品詞によって、“合”kap6の俗字[2]と見られるものもある。

“甲”の品詞は単一化ではなく、名詞、助詞、連詞、介詞の数種類があり、様々な用法を持っている。

2．1　名詞

名詞の“甲”は、普通話“甲”の意味、用法とほぼ一致する。

①十干の第1位（甲、乙、丙、丁…）。また、天干（十干）と地支（十二支，子、丑、寅、卯…）との組み合わせで年号を表し、干支と称する（甲子、甲午…）。

②排列順序の1番目。例：桂林山水甲天下、甲班、甲等

③動物の甲羅、爪。例：亀甲；掌甲（指甲）、甲邊（指甲蓋儿的両邊）

④旧時の“保甲”制度。例：十戸一甲、十甲一保

2．2　連詞

連詞の“甲”は「と」を意味する。“合”の俗字と見られ、普通話の“和”に相当する。

亀甲鼈（烏亀和甲魚）　　我甲伊（我和他）

早起甲下昏（早上和晩上）　　旧年甲今年（去年和今年）

2．3　介詞

動作の対象を引き入れる。連詞の“甲”同様に、“合”の俗字と言われる。普通話の“跟”、“同”、“給”に相当し、「～に」を意味する。

我甲汝講　　（我跟你説）

我甲汝来去迭迤　　（我跟你去玩儿）

我去汝兜甲汝拿　　（我去你家替你拿）

甲人膏膏纏　　（跟人糾纏不清）

連詞、介詞の“甲”は普通話の“和”、“跟”、“給”とは字形が異なるが、意味的にも、使われ方も対応整然と思われる。

2．4助詞

助詞としての“甲”は、連詞、介詞同様に、古代・現代漢語の“甲”とは意義上の繋がりがなく、ただ字音に合わせて“甲”の字形を借用していると考えられる。

閩南語には数多くの方言詞が存在するが、独創的な方言文字はさほどない。一般的に音声的もしくは意義的に合わせて、古代漢語既存の字形を訓読みとして借用する。その面では、独創的な方言文字を多く持つ粵語とは若干異なる[3]（小松）。しかし、それが閩南語の古めかしさを示す一面とも言えよう。

助詞的“甲”は二種類に分け、a. 文末助詞；動詞あるいは形容詞の後に置かれ、補語の役割を果たす。b. 構造助詞；動詞、形容詞と補語の間に置かれ、普通話の“得”に相当する。“甲”の助詞的使われ方は特徴的と思われるので、重点的に見ていきたい。

3．助詞の“甲”

3．1　補語――文末の“甲”

この類の“甲”は動詞、形容詞の補語として用いられ、V甲・A甲の構造を以ってフレーズの述語部分となり、並でない程度を表す。“甲”は「とても」「たいへん」を意味し、普通話の補語“～得很”、“～極了”に相当する。

① V甲

即両日做甲（這両天做了好多）　　汗流甲（汗流浃背）

我共伊冤甲（我跟他吵得厲害）　　雨落甲（雨下得好大）

〔個〕両股拍甲（他倆打得不可開交）

得卜〔勿会〕赴咯，我是走甲。（快要来不及了，我拚了命地跑）

拍無一只鶏，害我找甲（没了一只鶏，害得我好找）

② A甲

昨方無閑甲（昨天忙極了）　　今旦熱甲（今天熱得很）

菜好食甲（菜好吃得很）　　桌頂沙甲（桌面粗糙得很）

人刺頁甲（熱得難受）　　遐吵甲（那儿吵鬧極了）

即領衫水甲（這件衣服好看極了）　　風透甲（風大得很）

我否勢甲（我太不好意思了）(4)

V甲、A甲構造は、“甲”の後に高い程度を表す様態補語が省略されているとも考えられる。よって、補語をつけ加えることも可能だが、“甲”の役割は補語から一変し、フレーズの構造助詞となる。また、様態補語を付けることによって、動作行為の様相が更にわかりやすくなる。例えばV甲の“雨落甲”→“雨落甲正大”（很大）、“雨落甲規半日”（大半天）になると、程度の強さ、時間の長さなどが、補語によって一目瞭然となる。また、A甲の“菜好食甲〔勿会〕通嫌”、“昨方無閑甲卜死”も補語によってその程度がさらにわかりやすくなる。構造助詞“甲”に付く補語の形は様々で、その一つV甲A甲構造もある（3.2. ①）。このタイプでは、Vにつく甲が構造助詞で、A甲がV甲の補語と見られる。

3．2　構造助詞

“甲”は動詞、形容詞と補語の間に置かれ、普通話構造助詞の“得”に相当する。V甲C・A甲Cの二タイプがある。Cの現れ方も様々。タイプ別にまとめて見ていく。

① V甲C

a. c：a甲　（下線：構造助詞,波線：補語）

食甲飽甲（喫得飽極了）　　穿甲水甲（穿得好看極了）

走甲緊甲（跑得快極了）　　看甲歓喜甲（看得高興極了）

拍甲雄甲（打得厲害極了）　　做甲歹命甲（做得太辛苦了）

3．1にふれたA甲V甲構造だが、このタイプの補語A甲にはさらに補語も付けられる。“食甲飽甲（〔勿会〕行路）”、“看甲歓喜甲（無話講）”、“拍甲雄甲（驚死人）”の類。

b. c：動詞 / 動詞フレーズ（太線：V，細線：O，波線：adv修飾語）

雨落甲〔勿会〕煞（雨下個不停）　　做甲卜死（做得辛苦極了）

走甲裂褲 骸（跑得狼狽不堪）　　困甲不知人（睡得死死的）

代志做甲無一点仔破隙（事情做得没有一点儿破綻）

c．c：形容詞

●単音節　（波線：副詞的修飾語）

睏甲野晏（睡得很晚　）　　走甲上緊（跑得最快）

講甲〔勿会〕否（講得不錯）　　拍甲傷過迷（打得太激烈了）

等甲赫尼久（等得那麼久）　　迭迤甲無爽（玩得不高興）

●複音節

代志做甲真水气（事情做得很漂亮）　走甲真青狂（跑得慌慌張張）

做人做甲太無利眼（為人太糟糕）　害甲野青慘（害得相当慘）

布置甲野束結（布置得相当整潔）　坐甲真四正（坐得非常端正）

講甲〔勿会〕輾轉　（説得語無倫次）

●重ね形－AA・AAA・ABAB

AA：看甲神神（看得出神）　AAA：看甲神神神

妝甲水水（打扮得漂漂亮亮）　妝甲水水水

食甲飽飽（喫得飽飽的）　食甲飽飽飽

聽甲戇戇（聽得發呆）　聽甲戇戇戇

想甲空空（想得不着邊際）　想甲空空空

抹甲香香（抹得香香的）　抹甲香香香

擠甲密密（擠得水泄不通）　擠甲密密密

搬甲光光（搬得精光）　搬甲光光光

ABAB：坐甲四正四正（坐得端端正正）

做甲否命否命（做得辛辛苦苦）

代志辦甲水氣水氣（事情辦得非常漂亮）

厝内掃甲清氣清氣（家里打掃得幹幹淨淨）(5)

多音節形容詞には一部重ね形を持たない偏正構造複合詞が存在する。このタイプの形容詞には副詞的修飾語を伴わない。

（波線：偏，二重線：正）

罵甲臭頭（臭頭）　做甲半小死（要死）

食甲胖肚（大腹便便）

形容詞の重ね形、偏正構造複合詞を除き、V甲Cの“甲”につく形容詞補語には、単音節、復音節ともに副詞的修飾語が必要で、裸の形容詞はよくない。其の点においては現代漢語普通話形容詞の用法に一致する。形容詞の重ね形は実詞の他にも「形容詞＋助詞」「助詞＋形容詞」の構造があり、その類をABB・BBAと表記する。助詞「BB」を構成される語の一部は形容詞、動詞、名詞の重ね形で、重なる部分は擬声語、擬態語となり、多少意味を持つ。ABBタイプの助詞は抽象的な語を多く使用し、意味を有しないものが多い。

甲につく補語Cの部分は多種多様な形で表れる。その現れられ方はBBA＆ABBタイプを含み「補語の現れ方」の項目を設けて述べる。

②A甲C

a. c：AAA

静甲静静静（安静極了）　　白甲白白白（雪白雪白）

b. 複合形容詞

寒甲哭爸（冷極了）　　孽甲会死（調皮得很）

〔瘔〕甲半小死（累死了）　　無閑甲卜死（忙得要命）

熱甲無命（熱得要命）　　否甲顧人怨（壊得討人嫌）

“哭爸”は荒っぽい言葉であるが、“会死”、“半小死”、“卜死”、“顧人怨”とともに程度が甚だしいことを表す。この類は副詞修飾語を伴わなくてよく、また重ね形もない。

c. c：動詞フレーズ

（二重下線：V，点線：O，一重下線：C，波線：adv）

否甲死絶（壊透了）

好甲〔勿会〕通嫌（好得無法挑）

凶甲〔勿会〕見人（難看得見不得人）

代志多甲纏〔勿会〕直（事情多得纏不完）

d. c：介詞フレーズ

「若＋名詞」構造が主であり、「～のよう」を意味し、普通話の“像～一様”、“像～似的”に相当する。

水甲若花（美得像花一様）　　白甲若紙（白得像紙一様）

紅甲若火（紅得像火一様）　　代志多甲若狗毛（事情多如牛毛）

〔身長〕lo4甲若竹篙（高得像竹竿似的）

4．“甲”につく補語Cの現れ方

以上、V甲C・A甲Cの“甲”につく補語Cの種類の幾つかを取り上げて見た。ここでは“甲”につくC補語の類型を纏めてみよう。

4．1形容詞

① 単音節

a. A

単音節形容詞には修飾語が必要で、V甲Cのみに使用される。

b. AA

V甲Cのみに使用される単音節形容詞の重ね形。そのタイプには副詞的修飾語は必要ない。

c. AAA

閩南語特有の形容詞重ね形。AAよりさらに程度の高いことを表す。V甲C、A甲Cともに使える

②復音節

a. AB・ABAB

V甲Cタイプに多く見られる。AB形容詞は様態補語としてV甲につく時、単音節形容詞同様、副詞的修飾語が必要。重ね形はABABで、修飾語は不必要。一部副詞的修飾語、重ね形を持たない複合形容詞も存在する。

b. BBA

3．2にふれたように、BBを構成する語の多くは動詞、形容詞であり、擬声語・擬態語として被修飾の形容詞、動詞の様態を表す。V甲C、A甲Cともに使える。

走甲<u>哼哼</u>喘（擬声語＋v）　　行甲<u>倥倥</u>顛（擬態語＋v）

代志做甲<u>戇戇</u>雄　（擬態語＋a）　痛甲<u>哼哼</u>呻（擬声語＋v）

鬧熱甲砻砻滚（擬態語＋v,砻：〈水など〉沸騰する。砻，方言漢字。）

c．ABB

このタイプのAは動詞あるいは形容詞で、BBの重ね形は二通り存在する。V甲C、A甲Cともに用いられる。

(1) 形容詞・動詞・名詞の重ね形（重なる部分は多少意味がある）

走甲青狂狂（a，跑得急急匆匆）　聴甲戇呆呆（a，聴傻了眼儿）

燃甲焼滚滚（v，焼得滚燙滚燙）　静甲静清清（a，安静極了）

妝甲花猫猫（n，打扮得花里胡哨）穿甲破糊糊（n，穿得破破爛爛）

創甲流瘍鬼鬼（n，弄得臓兮兮）

(2) 助詞の重ね形（重なる部分は特に意味無し、単に語呂合わせ）

写甲密□□tsiuh6tsiuh6（写得密密麻麻）

創甲茹唆唆（弄得乱七八糟）　妝甲水当当（打扮得漂漂亮亮）

洗甲清氣溜溜（洗得干干浄浄）　笨甲笨車車（笨極了）

白甲白屑屑（雪白雪白的）　矮甲矮刺刺（矮墩墩的）

肥甲肥盾盾（肥肥胖胖的）　赤甲赤爬爬（凶悍撒溌）

ABB型の形容詞重ね方は普通話とほぼ同様である。（王涵、小松,93）

このタイプでは一部双声迭韻のBBもある。

●双声：瘦甲瘦嘩pi 1 吧pa 1　（瘦巴巴的）

睏甲陷眠□ti ʔ6□tu ʔ6　（睡眼惺忪）

●迭韻：空甲空朗long2慫song4　（空蕩蕩的）

白甲白碌lut 6 □sut 6　（雪白雪白）

③A甲（3．2①参照）

4．2　短語類

①動詞短語（V甲C、A甲Cの項目参照）

②介詞短語（A甲C．参照）

③主述短語（二重線：主語，点線：述語，太線：補語，波線：修飾語）

看冊看甲目珠花（看書看得眼睛都花了）

拍甲血流甲　（打得鮮血淋漓）

哭甲目屎流目屎滴（哭得一把眼涙一把鼻涕）

吵甲講話攏聽無（吵得連話都聽不見）

看甲規孤人神去　（看得人都發呆了。規孤人：整個人）

4．3　その他

①代詞

●疑問代詞“安怎”（怎麼様）

講甲安怎（講得怎麼様）　　做甲安怎（做得怎麼様）

考甲安怎（考得如何）　　学甲安怎（学得怎麼様）

●指示代詞“安尼生”（這様）、“迄款”（那様）

汝敢考甲安尼生（你怎麼考成這様）

做人做甲安尼生（做人做成這様）

猫甲安尼生（小氣成這様）

無一人像伊枵鬼甲迄款（没有人像他那様吝嗇）

②数量詞

米施甲一塗骸（米撒了一地）　　做甲規半日（做了老半天）

創甲一大堆（弄了一大堆）

以上は現代閩南語に見られる“甲”についてまとめて見た。閩南語は上古時代漢語の名残りと知られているが、“甲”の用法は文献資料からも考察できる。

5．梨園戯≪荔鏡記≫に見られる“甲”

宋元南戯の一つである梨園戯は、古い歴史を持ち、福建省南部地方で広く行われている地方劇の一種でもあり、泉州音が使用言語となっている。明・嘉靖刊本≪荔鏡記≫[6]（以下≪鏡≫と略す）は、今迄閩南泉州地方で発見された最古の戯文であり、“甲”の用例が多く見られる。その品詞、用法を類別してみれば、名詞“甲”は現代閩南語、普通話との用法にほぼ一致する。俗字と言われる連詞的、介詞的用例も見られる。助詞的用法が見つかっていないが、文書語、口語との違いが原因と考えられる。また、

当て字であるため、≪荔鏡記≫には、“甲”が連詞、介詞のみならず、動詞的役割をも担っている。

5．1　名詞＆連詞

①名詞

值個是甲首？老的是甲頭。　—≪鏡≫第32出

前日牌差捕甲曾経前去提獲陳三一起姦情　—≪鏡≫44

人人頭置頭矛身帯甲　—清順治刊本≪荔枝記・五娘看燈≫(7)

② 連詞

≪荔鏡記≫には見られないが、清・順治刊本≪荔枝記≫の一例を挙げてみる。

打死你甲伊（和）　—≪荔枝記・打媒姨≫

5．2　介詞

将只礼聘甲我送轉（給）　—≪鏡≫14

小七，甲唖媽討一対金花来。（跟、向）　—≪鏡≫13

承得我甲伊上身（跟、同）　—≪荔枝記・五娘看燈≫

やり取り相手を示す「～に」以外の介詞的用法も見られる。

①処置式　「～を（如何処置する）」

“甲O来/去VO”構造をもつ。“甲”は、普通話介詞“将・把”の用法とほぼ一致し、“甲”を使って目的語を動詞の前に持ってくる。“来・去”を動詞の前に置かれ、「何かをする」を示す。≪荔鏡記≫の台詞に現れる構造だが、現代閩南語の口語にはあまり使われていない。

阮父許時乞里長騙，甲我来買乞人飼。—≪鏡≫13（把我賣給人喂養）

你向愛銭，甲恁査某仔去賣乞人。—≪鏡≫14（把你女児賣給他人）

一時失操，将（甲）＊你鏡来打破除。—≪鏡≫19（将你的鏡子打破）

＊（　）は原本。“将”は鄭国権校訂。

5．3　使役動詞の“甲”kio4

“甲OVO”構造を以って「～させる」を意味する。“甲”kio4は当て字と思われ、普通話使役動詞“叫、讓、使”の用法にほぼ一致する。

≪鏡≫には多くの用例が見られる。

緊来緊去，我甲人[8]買一猪脚　　－≪鏡≫9　　（叫人）

障般好釵甲人去屯除　　－≪鏡≫14　　（讓人去糟踏）

井硬甲人嫁乞伊　　－≪鏡≫14　　（叫人嫁給他）

明旦甲恁師仔放早来磨　　－≪鏡≫18　　（叫你徒弟早々来磨）

そこで試みに、≪鏡≫において使役動詞“甲OVO”がどの程度の頻度で現れるかを調べてみた（“叫”混用の例を除く）。全54出、数字は出現回数を示す。

第9出……1	第13出……2	第14出……13
第19出……2	第21出……1	第22出……4
第24出……4	第25出……2	第25出……2
第26出……6	第29出……2	第30出……2
第32出……1	第33出……1	第34出……1
第35出……3	第36出……2	第37出……2
第38出……1	第40出……1	第41出……1
第45出……3	第48出……1	第49出……2
第50出……1		

以上からも“甲OVO”が梨園戯において、高頻度に出現される様子の一斑をもうかがい知ることができよう。

さらに、≪鏡≫には“甲”を持つ二重使役文も見られる。

甲O叫O来/去VO構造を以って現れる。数字は“出”を示す。

亜公甲我叫小八去拾柴　　……21

我昨暮甲你去叫陳三来沃水　　……24

阮亜媽甲我来叫你掃厝　　……25

甲Oは使役１、叫OVOは使役２となり、来・去は方向を示す。

甲のO（人称名詞）はS（主語）にさせられる手でもあり、また使役２

のOのさせる手でもある。

阮亜媽甲我来叫你掃厝

お母さんに言われて、あなたに家の掃除をさせる（頼む）。この類型の“甲”は、現代ビン南語では“叫”kio4、“教”kio4（白）[9]と表記する。≪鏡≫において、“叫”、“甲”混用の例も見られるが[10]、使役文のほとんどが“甲”を用いる。一般動詞“叫”は「呼ぶ」「話す」の意味を持つ[11]。二重使役文では、おそらく区別するため使役１に“甲”、使役２に“叫”を使い分けたのであろう。変化を付けて示す方法は特徴的で、工夫を凝らした一面がうかがわれる。

５．４ “甲”と“教”

以上二重使役の“甲”は“教”の当て字との考えを示した。唐、宋以降の詩詞曲文からは“教（O）V（O/C）”の使役構造が多く見られ、上述の“甲OVO”にも対応できる。ただし、古代漢語使役動詞“教”後の「O」（人）の省略はしばしばだが、≪鏡≫には見られない。

●唐代詩詞例　（二重線：教，太線：V，波線：O，点線：C。以下同。）

李商隠　　風波不信菱枝弱，月露誰教桂叶香　　－無題

≪李商隠詩集疏注（上、下）≫　P397

李煜　　莫教偏，和月和花，天教長少年.　　－後庭花破子

≪李煜詞全集≫P135[12]

冯延巳　　天教心願與身違　　－浣溪紗

≪全唐五代词≫P420

●宋詞例

李清照　　云鬢斜簪，徒要教郎比并看。　　－減字木兰花

≪李清照词全集≫[13]P344

浓烟暗雨，天教憔悴瘦芳姿。　　－多丽咏白菊

同≪全集≫P355

蘇軾　　挽回霜鬢莫教休　　—浣溪沙・即事

≪蘇軾詞全集≫[14] P30

枉教人、梦断瑶台曲　　－贺新郎・夏景

同全集　P115

莫恨黄花未吐，且教红粉相扶　　－西江月・重九

同全集　P52

可惜一溪名月，莫教踏破瓊瑶　　－西江月

同全集　P53-54

●元曲例

関漢卿　　蛾眉淡了教谁画　－［双调］大德歌・夏

≪关汉卿全集≫P594

好教我情惨切　　—［驻马听］

≪関大王独赴单刀会≫第４折　同全集　P309

刚道得声“保重将息”，痛煞煞教人舍不得

－［双调］沉醉东风　　同全集　p589

［卜儿做哭科，云］孩儿，你教我怎生说波！

同全集≪感天動地竇娥冤≫第１折　P10

大人也，却教我平白地说甚的？－同上　第２折　P22

［刹子云］有甚么亲眷要见的，可教他过来见你一面也好。

－同上　第３折　P27

馬致遠　　怎生教老僧禅定　　－［双调］寿阳曲・烟寺晚钟

≪马致远散曲校注≫P27

［落梅风］天教你富，莫太奢。－［双調］夜行船・秋思　　≪唐詩宋詞元曲経典≫P904

以上、目的語の省かれる文を除けば“教”は、ほとんど“甲”との置き換えが可能と思われる。

6．終わりに

閩南語の“甲”は品詞によって一部俗字と見られるものもあるが、方言

文字として文法的機能を十分果たしているのも事実と思われる。“甲”と“教”についてはまだ検討の余地があるので、今後の課題にしておきたい。

注

(1) 閩南語は陰平、陽平、陰上、陰去、陽去、陰入、陽入など七つの声調を有し、6は入声の陰調を示す。「?」は声門閉鎖音。

(2) “合”は連詞、介詞の二種類。連詞「と」普通話では“和”、“與”、介詞「～に」は普通話の“跟、和”に相当。

(3) 例（普通話：閩南語：粤語）　不：唔：〔口母〕，媳婦：新婦：心抱，

(4) “不好意思極了”、“不好意思得很”の表現もあるが、スパンが長いため、程度補語を修飾語に変えて、形容詞の前に置く表現がより自然。

(5) “清氣”の重ね形は“清氣清氣”、“清清氣氣”の二通りあり、“清氣清氣”がよく使われる。“清清氣氣”口語ではあまり使用されないが、普通話の影響と考えられる。閩南語には“羈羈據據”、“哩哩落落”のような復音節形容詞もあるが、重ね形ではなく、一般的に修飾語を伴わない。

(6) 明嘉靖丙寅年重刊≪荔鏡記≫は、梨園戯≪陳三五娘≫祖本であり、日本天理大学図書館と英国オックスフォード大学図書館には、各一部保存されている。拙論の依拠となる≪泉州伝統戯曲叢書・第1巻≫に収録されている≪荔鏡記≫は、日本天理本写真などにより校訂したもの。

(7) 清順治辛卯年刊本≪荔枝記≫は、同じく≪陳三五娘≫物語。原本写真（台湾成功大学施丙華氏提供）及び台湾大学呉守礼氏校著≪順世治刊本荔枝記研究≫に基づき校訂した。≪泉州伝統戯曲叢書・第1巻≫に収録されている。

(8) “甲人：叫人或差人”－≪荔鏡記≫鄭国権校訂　同叢書第1巻p20

(9) “教”の文語音はkau4。4は閩南語の陰去調を示す。

(10) “叫”混用例：待小弟叫簡仔討檳榔吃（第5出）、叫我割伊（9）、許内不准叫許泉州人兆旱（19）、叫恁磨一鏡,卜若工銭（19）、など。

(11) 只一簡都通叫我名（第28出）、今着叫一声三哥即放（26）、叫得小七出来（19）（以上“叫”は「呼ぶ」）、叫不是伊打破，叫是泉州人打破（19）（“叫”は「話す」）、など。

(12)(13)(14)　≪唐宋詞百家全集≫に拠る。≪李煜詞全集≫は全集第1冊、≪蘇軾詞全集≫は全集第4冊、≪李清照詞全集≫は第5冊。

参考文献

1．≪厦門方言研究≫　周長楫　福建人民出版社　1998年2月

2．≪厦門方言字典≫　周長楫編纂　江蘇教育出版社　1993年
3．≪普通話閩南方言詞典≫　厦門大学言語文学研究所漢語方言研究所主編　三聯書店香港分店　1982年10月
4．「関於形容詞の重疊」『教学』第15期　1993年6月
5．「閩南方言語彙と粤方言語彙の異同についての一考察」『城西国際大学紀要』第８巻第２号　2003年3月
6．≪文法の話≫　朱德熙著　中川正之等編訳　光世館　1997年
7．≪現代漢語≫　何世達主編　北京大学出版社　1986年1月
8．≪泉州伝統戯曲叢書≫第１巻　泉州地方戯曲研究社編　中国戯曲出版社　1999年9月
9．≪唐宋词百家全集≫钟叔河方编　广州出版社出版 1994年9月
10. ≪李商隱詩集疏注（上、下）≫叶葱奇 疏注 人民文学出版社1985年
11. ≪全唐五代词≫张璋　黄畲编　上海古籍出版社 1986年2月第１版
12. ≪关汉卿全集≫吴国钦校注，广东高等教育出版社出版　1988年10月
13. ≪马致远散曲校注≫刘益国　书目文献出版社　1989年7月第１版
14. ≪唐詩宋詞元曲経典≫主編郝世峰、陳洪　大連出版社　1994年3月第１版